

平成 26 年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(木曾岬町) の概要 【速報版】

9月27日(土)に木曾岬町ふるさと創生ホールで「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「ボラ倶楽部」の皆さん7名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

(活動紹介)

- ボラ倶楽部は、町民の皆さん、特に子どもたちに喜んでもらえるイベントを開催している。「やろまい夏祭り」という町の一大イベントには、町内から約 1,000 人が参加している。また、一昨年から始めたお化け屋敷も好評である。
- その他の活動としては、小学校で小型動物を見せる「ふれあい動物園」や、プロのモデラーを招き、子どもも大人も楽しんでもらえる「プラモつくろーぜ会」を開催している。

Q.この活動に参加して、良かったこと、嬉しかったこと、感動したこと、やりがいを感じたことはありますか？また、自慢話はありませんか？

- 最初はいつこの会を抜けようかと思っていたが、活動しているとそのうちに楽しくなってきた。もともとこういうことが自分の中で好きだと気づいた。
- 夏祭りでお化け屋敷に準備をしている時、通りがかった中学生が「今年も行かなあかなあ」と楽しそうに話しをしているのを聞くとやっていてよかったと思う。

この会に入って、周りの人たちと触れ合いができて、みんなが応援してくれるようになった。今までそのようなことがなかったので嬉しい。

この会は、学園祭のような感じで、世代も 20 歳代から幅広いところがよい。参加している人が皆笑顔で、活動している人も世代を越えて、みんなで頑張っている。このような会は他にはないと思っている。

役場の住民課に勤めているが、普段の業務では「ありがとう」とはなかなか言われないが、夏祭りの時には、住民の皆さんから「夏祭りお疲れ様」と言われて、励みになった。

祭りが終わると疲れる。でも皆さんが喜んでくれたり、子ども達が大きくなって思い出して、自分もこういうことがやりたいと思ってもらえればいい。だから今までこの活動への参加が続いているのかなと思っている。

ボラ倶楽部の前身の時代から、この会に関わっている。自分自身がイベントをやっている楽しいということもあるが、子どもの笑顔を見たり、楽しそうな声を聞くのがやはり楽しい。

最年長であるが、姑根性を出して、みんなとやっている。自分たちで企画する楽しさを感じている。

(町長) 住民の皆さん方が、中心になって主体的にいろんな活動をしていただき、まさにそれを実践、実行しているのが、ここにいるボラ倶楽部の皆さんであり、嬉しく思っている。

Q.この会でこんなことをやりたいとか、活動をやっていく上でこういう課題があるとかありませんか？

木曾岬町の子ども達に如何に楽しんでもらえるかを考え活動している。その子どもたちが大人になった時に、子どもの頃はこんな楽しいことをやっていたと、自慢してもらい、それをきっかけに、また木曾岬町に帰ってきて根付いてもらうというのが我々の目標である。

新しいメンバーの参加に向けていろいろ発信しているが、他の町にあるような伝統芸能とか地場のものを使って何か作るということではなく、いわば遊びのための団体と思われるので、参加者が思うように増えない。特に若い方の入りが悪い。

しっかりした活動をしている団体には、それを応援したいという企業とのマッチングシステムのようなものを町や県で構築してもらえるとよい。

都市に近いという地理的なこともあるが、高校生から就職、子どもが産まれるまでの間は、町の外へ出て行き、その後、子どもが産まれた段階でまた、ここに落ち着くというケースが多いので、我々の団体が欲しいと思っている高校生から子どもが産まれるまでの若い年代が町内にいない。

ここ 4, 5 年前からメンバーが固定しているので、新しい発想をもった若い人を組織の中に取り込んで、若い世代の感性でイベントを企画し、町民の皆さん、特に若い世代に来てもらいたい。

(町長) こういった皆さんの熱い思いから、さらに活動の輪を広げられるように行政としても支援をしたいと思っている。木曾岬町は、桜やトマトが自慢だが、もっと自慢するものは人柄と土地柄である。木曾岬ならではの魅力を発信していけるその原動力は、このボラ倶楽部の皆さんだと思っている。

【知事の発言】

役場の職員が一住民として活動するというのは大事なことである。うちの県職員も、スポーツのこととか、林業のこととか、興味を持っている分野で活動している。三重県全体も、若い人達の減少、社会流出をどう食い止めるかということ県で考えている。地元を出ていく若い人達に魅力的な地域にして行くかが県全体としても大きな課題である。今すぐ答えが出ることではないが、県も真剣に一緒に考えていかないといけない。そういう根幹的な部分を解決していかないと、皆さんの活動の目標につながっていかない。

若い人を会員にするためには、若いメンバーが友達を誘ってくれたりすると良いかもしれない。若者が一時的にチャレンジのため外に出て行って、成長して戻ってくるとことは応援してあげないといけないと思うが。最後に戻ってきてもらうには、地域に戻ってくる魅力がないといけない。県全体としても大事な課題である。暮らす場としての魅力がないと駄目だろうということになるが、暮らす場としては、ボラ倶楽部の皆さんが本当に楽しい街づくりをしていただいているので、木曽岬町はそういう魅力がたくさんある場所になっているのではないかなと思う。



【「ボラ倶楽部」の皆さん】とは

「ボラ倶楽部」は、イベントを通じて地域住民相互の親睦の場を提供するとともに、自主的な活動団体として元気なまちづくりの推進に寄与することを目的として設立された団体です。ボランティアと出世魚のボラをかけて「ボラ倶楽部」と名付けています。